

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070801867		
法人名	有限会社 あざみ		
事業所名	グループホーム あざみ苑		
所在地	〒813-0036 福岡県福岡市東区若宮4丁目2番48号	092-663-8119	
自己評価作成日	平成26年02月25日	評価結果確定日	平成26年03月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>地域の子供会や小学校、保育園との交流を深めている。また、交流会等のイベントだけではなく、いつでも遊びに来れる様苑を開放している。</p>

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

<p>「あざみ苑」は、利便性の良い市街地の道路沿いに、3階建てビルの1階、2階部分を利用して開設した、2ユニットのグループホームである。道路を挟んで正面に、24時間営業のスーパーがあり、毎日利用者と職員は、新鮮な食材を買い出しに出掛け、顔馴染みになり、重たいものを届けてもらう関係を楽しんでいる。また、町内会に加入し、ボランティアや子供会、保育園児の訪問があり、利用者の生きがいに繋げている。苑長は、地域の小学校に向向き、認知症介護について丁寧に講演し、体験学習を6回に分けて受入れ、利用者として小学3年生が交流を図り、利用者の楽しみの一時である。また、隔週毎の往診が出来る協力医療機関と、常勤看護師による協力体制が整い、介護職員の観察力と判断で、早期発見、治療に取り組み、利用者の健康管理は万全な「グループホームあざみ苑」である。</p>
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号	093-582-0294	
訪問調査日	平成26年03月20日		

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9.10.21)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11.12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32.33)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関やリビングに理念を掲示し共有して業務に取り組んでいる。利用者が地域と関わりが持てる様、地域行事に参加したり近所のスーパーに行くなど積極的に行っている。	ホームが目指す、介護サービスを明示した理念を、目に付きやすいところに掲げ、職員全員に周知され常に意識して、地域の中で、利用者が日々の暮らしを大切に、生きがいを持って暮らせるように支援している。また、職員は、利用者の立場にたって介護を実践し、利用者や家族からの信頼は深いものがある。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事に積極的に参加し、また当苑でも催しを企画し参加していただき利用者が地域と関わっていると感じられる様取り組んでいる。	自治会に入り、地域の夏祭りや運動会に利用者職員が参加し、地域の子供会と合同のクリスマス会や、小学3年生の体験学習を受け入れ、交流の輪が広がっている。また、苑長が小学校に出掛け、事前に認知症について講義し、6回に分けて体験学習を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	校区の小学校に出向き、認知症の病気についての講義を行い、その後子供たちが来苑し勉強したことを実践出来る様取り組んでいる。		
4	3	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	イベント等で地域とふれあう機会が多いものの運営推進会議への参加はほぼ期待できず、今年度は行っていない。	運営推進会議は今年度は、実施出来ていないので、次年度は、心機一転、会議の重要性と会議が成功することが、ホームの発展と地域密着型事業所として、地域から信頼されることを職員全員で理解し、実施に向けた努力が始まっている。	町内会長、老人会長、民生委員、公民館長、有識者、知見者、同業管理者等に参加要請し、会議がホーム運営に発展し、地域との関係強化に繋がるように取り組み、参加者が楽しんで、有意義な会議になることを期待したい。
5	4	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや区役所とは必要に応じて連絡を取り、協力関係を保つようになっている。	苑長は、ホームの運営状況や困難事例、課題等を行政に相談し、課題解決に向けた協力関係を築いている。また、地域包括支援センターにも出向き、ホームの利用状況や情報を交換し、連携を図っている。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徹底的に職員に教育を行い、正しく理解し身体拘束をしないケアに日々取り組んでいる。玄関施錠は日常的に行っていない。	勉強会を開き、職員は身体拘束の弊害を理解し、言葉かけや、対応に十分に配慮し、身体拘束をしない介護を実践している。また、ホームが交通量の多い道路に面しているが、日中は玄関の鍵はかけずに、職員の見守りで、利用者が、自由に出入り出来る体制を整えている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	行政からの研修等に参加し、言葉の虐待等を見過ごすことの無い様に、不適切な言動や対応はその都度お互いに注意し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等があれば積極的に参加し、ミーティングでの報告、レポートや資料の閲覧での情報の共有をしている。	制度を、申請中の利用者がおられるので、職員は制度を理解し、資料やパンフレットを用意し、入居時に説明している。研修会に参加し、利用者や家族が必要とする時には、制度について管理者から、内容を説明し、申請手続きや関係機関への、橋渡しができるように取り組んでいる。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約の際には、ご家族と十分に話し合ったうえで不安や疑問点はいつでも相談に乗れる様取り組んでいる。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時等の機会に会話の中で要望や意見を聞き取り、職員全員で話し合い、改善するよう努めている。	家族面会や行事参加の時に、利用者の健康状態や、ホームでの暮らしぶりを報告し、家族からは、意見や要望を聴き取り、ホーム運営や介護計画作成に反映させている。また、話す機会の少ない家族には、手作りの温かいホーム便りを発行し、利用者の暮らしぶりを家族に理解してもらい、電話で意見や要望を聴き取っている。	
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案は定例会議に限らず、日常的に管理者に話せる職場環境、信頼関係が築けており、新しい取組や問題点等は申し送りノートを活用し全員が情報を共有できるようにしている。	職員会議を各ユニット毎に開き、カンファレンスを兼ねて研修会や勉強会を開催し、職員からの意見や要望、提案等が活発に出され、内容のある会議になっている。出された意見は、介護計画作成や業務改善に活かし、職員の意欲に繋がる会議になっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の個性を生かした業務が出来る様努めている。また、家庭環境や年齢等を考慮した勤務時間の特例も認めており働きやすい職場環境作りに日々取り組んでいる。		
13	9	人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢、性別や経験の有無で採用した事例はなく、やる気や適性を重要視している。また、年齢にこだわらず定年を迎えた職員も無理のない範囲で働ける様考慮している。	職員の募集は、年齢、性別、経験の制限はなく、採用後は、新人研修や、スキルアップ研修を実施し、職員の介護技術を向上させ、利用者の介護サービスに活かす取り組みをしている。また、職員の休憩室には、ホットたみみを敷いて、ゆっくり休憩が交代で採れるように配慮し、リフレッシュして、仕事に戻れる体制が整っている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	管理者や職員が研修に参加しミーティング等で報告をし、全員が人権について考える機会を設けている。	利用者の人権を尊重し、安心して暮らせる環境を目指し、職員一人ひとりが、利用者の尊厳に配慮した介護に取り組んでいる。また、外部や内部の人権研修会に参加し、職員一人ひとりが自覚を持って取り組む姿勢が始まっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の案内等があれば、基本は希望者に参加してもらうが、研修内容によっては管理者が職員を選し研修を受ける事でスキルアップ出来る様取り組んでいる。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、定期的に行われる研修会や勉強会には出来るだけ参加するよう心掛けている。また、当苑が満床で対応できない待機者を近隣の同業者に紹介し入居に至ったケースもある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居に向けご家族との面談時に得た情報や生活歴は職員全員で共有し、本人にあったサービスを提供し安心して苑生活を送れる様に努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談で困っている事、不安な事、本人に対して気を付けてほしい事等を詳しくお聴きし、入居後もご家族が不安に感じない様生活状況をお伝えしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人とご家族の要望を把握したうえで苑でのサービス、また事業所外のサービス利用を考慮し、相談しながら対応している。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する時間が長いのでお手伝いや会話の中でその人らしい生活が出来る様に配慮している。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居前の本人とご家族の関係を把握することで双方の話を聞き、より良い関係が保てるように配慮している。また、来苑時には本人の日常生活等をお伝えすることによりご家族が安心出来る様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や知人との関係が途切れない様、面会を大切に、積極的に受け入れている。	利用者が大切にしている友人、知人、近所の方等が、いつでも訪ねてみえるように、ゆっくり話せる場所や、お茶を提供出来るように配慮している。また、利用者の行きたい所や、懐かしい場所を聴き取り、家族に相談して、一緒に出掛けてもらう等、利用者が長年築いてきた、人間関係や、地域社会との関係継続の支援に取り組んでいる。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人一人の状況を把握したうえで孤立しない様お互いの関係を保ち関わりが深められるよう努めている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も必要に応じてお手紙のやり取りやお互いの近況報告等をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを考えたうえで本人本位になるように、また、困難な場合は寄り添いその時の言動から思いを汲み取る様努めている。ご家族に相談し協力を仰ぎ対応する事もある。	職員は、利用者と信頼関係が出来るように努力し、何でも話しあえる関係をつくり、利用者の思いや、意向を把握している。意向を言葉に出せない利用者には、職員が利用者寄り添い、話しかけ、表情や仕草から、利用者の思いや意向を汲み取る努力をしている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人や家族から情報を収集し全職員が周知出来る様にしている。さらに新しい情報があれば申し送りにて全職員が把握できるようにしている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活パターンを知り密に関わることでより本人の状況を把握している。また、色々な場面でのお手伝いをさせていただき事により有する能力を把握することに努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	より良く暮らすためにカンファレンスや適宜話し合い、検討をしケアプランに反映しモニタリングすることにより現状に即した介護計画を作成している。	利用者や家族と話し合い、意見や要望を聴き取り、カンファレンスや、モニタリングで検討し、利用者本位の介護計画を定期的に作成している。利用者の状態変化に合わせ、家族や主治医と話し合い、介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録は個別に的確に記録し、職員間で情報を共有している。介護計画作成後のモニタリングはわかりやすい様にマーカーで色分けしチェックするようにしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人一人その時の状況に応じて柔軟に対応している。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学生の生涯学習や中学生の体験学習の受け入れ等、出来る範囲で行っている。地域の夏祭り等のイベントは積極的に参加している。		
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に一度の訪問診療を受け、急変時には家族、本人の意思を優先に主治医に相談して対応している。	利用者や家族が安心して、医療受診が出来るかかりつけ医を支援している。隔週毎の往診を、協力医療機関と提携し、ホームの看護師と、協力医の看護師が連携し、安心して任せられる医療連携が整っている。また、利用者の状態変化に即、対応出来る体制も整っている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員には気付いた時点でその都度伝え、訪問看護師に連絡、相談して適切な受診、看護が受けられるよう支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院や家族と連絡を取り、職員が直接面会に行き情報交換している。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の希望に沿った支援を行うために早い時点から意向を聴き主治医や全職員で話し合い、方針を共有しながら適切な対応が出来る様取り組んでいる。	契約時に、利用者や家族にターミナルケアについて説明し、ホームで出来る支援について理解を得ている。利用者の重度化に合わせ、家族と連絡を取りながら、主治医も交えて話し合い、今後の介護方針を確認し、職員全員で方針を共有し、利用者や家族が安心して、終末期を迎えられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に備え、事故対応マニュアルは職員がいつでも見れるところに置くようにしている。また、夜間の緊急時に駆けつける職員も決めている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回合同避難訓練を行っている。また、施設単独の避難訓練も全職員参加で年1回行っており、地域の方にも協力していただいている。	毎年3回防災訓練を実施し、内1回は、消防署の協力を得て避難訓練を行い、自主防災訓練では、隣接する会社の職員が、利用者を車いすで避難誘導し、3階に居住するビルのオーナーとの協力体制も整い、利用者を安全に避難誘導出来る体制を目指している。また、非常災害時の非常食や、飲料水の備蓄の用意もある。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の表情や声掛けのタイミング等に十分配慮し、尊厳を持って接している。	職員は、利用者の個性やプライドに配慮し、優しい声掛けや対応で、利用者のプライバシーを尊重した、ケアの実践に取り組んでいる。また、利用者の個人記録は、見えないように保管し、職員の守秘義務については、常に、苑長が職員に話しをして理解した行動をとっている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り本人の希望や意思を尊重するよう支援している。また、自己決定できない利用者は職員が表情や反応を見極めながらケアにあたっている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースを大切に、コミュニケーションを取りながら過ごして頂く。職員は利用者の表情などを確認しながら希望や意向を聞くようにしている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は本人の行きつけの店へ職員が同行している。ADLの事情で出かけられない方は訪問美容をお願いしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事メニューは利用者に希望を聞き、材料選び、準備、盛り付けを一緒に行っている。食事の片づけも職員と利用者で協力して行っている。	利用者の食べたいものを聴いて、2ユニットそれぞれが、冷蔵庫の中の材料を見て献立し、食材の下拵えや味見、盛り付けや後片付け等を、利用者に手伝ってもらい、出来上がった美味しい料理を、利用者職員が、同じテーブルに座り、賑やかな笑い声の中で楽しい食事をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養摂取については特に気を配り、一人一人の状態を把握しながらバランスのとれた献立になるように努めている。補水量も記録し、一日に必要な量が摂取出来る様努めている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは必ず行っている。ご自分でできない利用者は職員が介助して口腔内を清潔に保つよう努めている。また、週1回の歯科往診により必要に応じて治療や嚥下マッサージを受けている		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、本人の尊厳を重視し、声掛けにも十分配慮したうえで自立支援に取り組んでいる。	職員は、利用者の排泄パターンを把握し、利用者一人ひとりに合わせた声掛けやトイレ誘導を行い、利用者のプライドや羞恥心に配慮した、トイレでの排泄の支援に取り組んでいる。また、オムツメーカーの指導で、利用者に合わせた、オムツや、リハビリパンツ、パットを使用し、オムツ類の使用軽減に繋げている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食物を献立に取り入れ、水分量にも配慮し、個々に応じた体操やウォーキング等を取り入れ、便秘の解消に努めている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日はある程度決まっているものの、それにとらわれず本人の希望や体調に合わせて楽しく入浴出来る様努めている。また、入浴剤を使用しリラックス出来る様な工夫もしている。	入浴は、週2回を基本としているが、利用者の希望を優先し体調等も考慮し、自由に入ってもらっている。香りの良い入浴剤を使用し、リラックスして、ゆっくり入浴出来るように配慮している。また、入浴を拒む利用者には、無理強いせず、職員が代わって、タイミングを見て声掛けし、利用者の自己決定を優先した、入浴の支援に取り組んでいる。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	不安や不穏がある時は職員がきちんと傾聴し気持ち落ち着いてから安眠できるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬情報は全職員が把握できるようにしている。また、服薬時には必ず名前、日付等を確認することを徹底している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の趣味を生かせるようなレクリエーションの提供に努めている。また、料理の手伝い等を通して張り合いのある日々を送れる様支援している。		
51	2.1	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	食材の買い物は職員が利用者と一緒に歩くようにしている。また、気候の良い時は近所の公園や地域の催しに出かけて四季を感じて頂ける様支援している。	正面に、24時間のスーパーがあり、毎日の食材の買い出しに、利用者と職員が出かけ、公園の散歩と合わせ、戸外に出かける支援に取り組んでいる。また、梅、桜、紫陽花、コスモス、紅葉見学等、季節毎に戸外に出掛け、利用者一人ひとりが、季節を五感で感じてもらえるような外出の支援を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者間のトラブルを防ぐためにも金銭管理は、家族と利用者承諾の下職員が行っている		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	気分が落ち着かない時や本人の希望があった時はその都度対応している。		
54	2.2	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある四季折々の絵や歌をリビングに貼ったり、利用者が参加した行事の写真を苑内に飾るなど工夫し快適な空間づくりに努めている。	利用者が一日の大半を過ごすリビングルームは、季節毎の絵や行事の写真を飾り、家庭的な雰囲気の中で、気の合う利用者同士が楽しそうに会話し、職員と作品作りに夢中な利用者等、思い思いに自由のんびりと過ごし、居心地の良い共用空間である。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでのそれぞれの定位置が自然と決まっており、思い思いに会話や歌を唄ったりと自由に過ごしている。一人になりたい時は特に誰に気を使うこともなく居室で過ごされている。		
56	2.3	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に今まで使用していた使い慣れた家具や利用者の好みの服や本などを持ち込んでいただき、入居後も違和感を感じない様に支援している。	利用者のお気に入りの机や椅子、筆筒や布団、仏壇、鏡等、家族の協力で持ち込んで、設置してもらい、自宅と違和感のない雰囲気にして、利用者が安心して落ち着いて過ごせる、居心地の良い居室である。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや洗面所、居室はわかりやすく表示している。また、手すりを利用することで安全で自立した生活が送れる様、最低限の見守りや介助で対応している。		